

## 広島県東部におけるイヌワシの記録

上野吉雄<sup>1)</sup>\*・石井秀雄<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 広島県立廿日市特別支援学校・<sup>2)</sup> 広島県立湯来南高等学校

### The Record of the Golden Eagles *Aquila chrysaetos* in Eastern Hiroshima Prefecture

\*Yoshio UENO and Hideo ISHII

**Abstract** : The habitation of the Golden Eagles *Aquila chrysaetos* in eastern Hiroshima prefecture was studied from November 2009 to May 2010. The Golden Eagles *A. chrysaetos* was recorded from May to July in 2010.

### 報告

イヌワシ *Aquila chrysaetos* は北半球の草原や灌木地域に広く生息し、翼を広げると 2m 近くある大型の猛禽である。6 亜種に分けられ、その中で亜種イヌワシ *Aquila chrysaetos japonica* は最も小さい亜種で、日本の森林環境に適応して小型化したといわれている（ワトソン 2006）。亜種イヌワシは朝鮮半島と日本のみが生息し、国内で生息状況が明らかになっているのは 25 県、192 つがいであるので（日本イヌワシ研究会 2007）、天然記念物や国内希少野生動物種に定められている。また、環境省により絶滅危惧 IB 類（環境省 2012）に、広島県、鳥取県、岡山県により絶滅危惧 I 類に、島根県により情報不足に選定されている（広島県 2012、鳥取県 2012、岡山県 2010、島根県 2004）。

広島県内におけるイヌワシの記録は、日本イヌワシ研究会の合同調査において西中国山地で 1995 年 12 月に確認されている（日本イヌワシ研究会 1996）。それ以外でも広島市の白木山で 1984 年 4 月に、廿日市市の極楽寺山で 1992 年 4 月に移動中の個体が記録されているにすぎない（日本野鳥の会広島県支部 2002）。

筆者らは広島県版レッドデータブック見直しのための現地調査において 2010 年 5 月から 7 月にかけて県東部においてイヌワシの生息を確認したので報告する。

調査は 2009 年 11 月から 2011 年 1 月にかけて広島県北西部の西中国山地や北東部の備北山地の 5ヶ所の山地で行った。その結果、県東部の 1ヶ所の山地でイヌワシの生息を確認した。

2010 年 5 月 24 日 13 時 40 分、谷を低く旋回するイヌワシの成鳥 1 羽を確認した。イヌワシの背後には 10 羽以上のハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* がモビングしながら追従していた。その後、南方向に低く飛翔して姿を消した。なお、前日の 23 日から 24 日の朝にかけて雨が続き 24 日の正午すぎに霧がはれ、視界が開けてきた。

その後、1ヶ月は姿が見られなかったが、6 月 19 日 9 時 50 分から 9 時 55 分にかけて山の尾根上を北方向に約 4km 飛翔するイヌワシ 1 羽を確認した。

7 月 6 日 13 時に尾根上を探餌しながら停止飛翔するイヌワシ 1 羽を確認した。14 時に再び現れ尾根上で探餌飛翔していた。さらに、14 時 30 分に現れ尾根上を飛翔した。

7 月 24 日 14 時から 14 時 5 分、尾根上を探餌飛翔するイヌワシ 1 羽を確認し、写真およびビデオ撮影することができた（図版 1-A）。

翌 7 月 25 日 10 時 39 分から 10 時 42 分にかけて尾根上高くをトビ *Milvus migrans* とともに旋回するイヌワシ 1 羽を確認し、写真撮影した（図版 1-B）。その後、イヌワシは単独で尾根の裏側に滑空して消失した。

その後、2011 年 1 月まで、月に 4 日くらい現地調査を行ったがイヌワシは確認できなかった。

今回、確認されたイヌワシは翼の形状から雄と思われ、翼の白斑も見られないので成鳥と判断した。9ヶ月に渡る調査の結果、イヌワシが確認されたのは5月から7月にかけての5日のみであることから、調査地のイヌワシは一時的に滞在した個体であると考えられる。

筆者らの1年2ヶ月の調査より、県内には周年に渡り定着しているイヌワシは存在しないものと思われるが、今後、従来のような林業の循環施行が復興することにより、伐採地や幼齢人工林、林道沿いなどの狩り場が拡大すると、イヌワシが再び周年にわたり定着する可能性があるため、今後も県内における生息状況について引き続き調査する必要がある。

## 謝辞

広島県版レッドデータブック見直しのための調査の機会を与えていただいた広島県環境県民局環境部自然環境課の方々、および調査に協力していただいた広島県版レッドデータブック見直し検討会の哺乳類・鳥類分科会の方々、広島タカの渡り研究会の河原忠司氏、日本イヌワシ研究会の新谷保徳氏と楠木憲一氏、株式会社荒谷建設コンサルタントの加藤淳司氏、広島県環境保健協会の松本明子氏、油野木公盛氏にこの場を借りて感謝の意を表す。

## 引用文献

広島県(2012)広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま2011ー。レッドデータブックひろしま検討委員会。

環境省(2012)第4次レッドリストの公表について。 <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=15619>

日本イヌワシ研究会(1996)第26回イヌワシ合同調査報告(西中国山地)。 *Aquila chrysaetos*12:15-16。

日本イヌワシ研究会(2007)全国イヌワシ生息数・繁殖成功率調査報告(2001～2005)。 *Aquila chrysaetos*21:1-7。

日本野鳥の会広島県支部(2002)ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版。中国新聞社。

岡山県(2010)岡山県版レッドデータブック2009ー絶滅のおそれのある野生生物ー。岡山県野生生物調査検討会。

島根県(2004)改訂・しまねレッドデータブックー島根県の保護上重要な野生動植物ー(動物編)。島根県環境生活部自然環境課。

鳥取県(2012)レッドデータブックとっとり 改訂版 鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物。鳥取県生活環境部環境政策課。

ワトソンJ;山岸 哲・浅井芝樹訳(2006)イヌワシの生態と保全。文一総合出版。

**A**



**B**



A: イヌワシ

2009年7月24日

B: イヌワシ (左) とトビ (右)

2009年7月25日